

## 俳句

## 大津俳句会

一木に仕へて散りし紅葉かな

井芹貞一郎

黄落やからまる日ざしほどきつつ

秋山 恵子

枯れ枯れて光の失せし芒原

市原 初女

稲架日和金峰山を借景に

江藤 みち

七五三両手引かれて笑顔かな

大塚喜久子

深々と視野包む靄今朝の冬

坂本 セキ

七五三離れ住む子の無事祈る

佐賀 久子

峠越す神にたむけの秋時雨

松尾 昭雅

風となり時雨となりて逝かれけり

岡崎 浩子

残月のかかる黄葉の一樹かな

森山美穂子

## 俳句

## つのはな句会

残り火を風が搔きたて萩乱れ

榮田シノブ

返納を決め立冬の三叉路に立つ

志賀 孝子

寄木細工の舟うごきだす星月夜

田上 公代

議事堂に秋夕焼けの乱反射

木庭 杏子

母の手の爪小さくて赤林檎

上杉 波

もめごとに頬被りして蛇穴に

矢嶋 道子

どんぐりを拾って想う良い話

水野 春子

萩の花こぼれて汽車が動きだす

梅木トキエ

秋蝶の下りゆく先よ庭石の陰

塚本 洋子

## 短歌

## 大津短歌会

眉ひそめ雑草茂る庭に降り

凛と輝く金木犀は

管野 静

フランクにわたしあなたと和みて咲くは

夏を華やぐマリーゴールド

豊岡ミツル

指せば細き舌先チヨロチヨロと

目をくるりと宮守逃げたり

坂本 杲子

大風に無事でおわすか川辺りの

小さき祠の地藏菩薩よ

渡邊佐代子

鞍岳を背にした棚田色づきし

水陰草の刈り取りを待つ

鞍 岳志

滅反の果てに聞こゆる土の声

荒草繁る地下の底より

吉永 恵子

秋風に吹かれて寂し萩の花

こよなく愛す面影の顔つ

小平 善行